



友人が来て、6人ほどで両国で一番安い飲み屋で飲んだ。あまり飲まない友人が多いから焚燗などは飲む人に集中してきてつい飲み過ぎになりこの日も飲み過ぎた。帰りは何年ぶりかでママチャリをまっすぐ走らせるのに努力が必要だった。しかしびっくりしたのは登壇脱足を取られたことだ。気持ちが悪いくらいいくらでもあるが、朝になってまで足をとられるなんてのはやったことがないし、酒が悪かったのではないかと疑っている。そんな話を後日していたら、前にあの店で高村さんと飲んだとき登壇脱脚もいかなかったです。」と言っていた。そうか、やっぱり酒が原因かな、その人はあまり飲まない人だし飲むと気持ちが悪くなるのわかっているから無理矢理はしていないのだが、それで頭痛では私がひっくり返るのも仕方がないか。以上から、たくさん飲むときはその店は敬遠する

ことに決めた。ただ問題は飲み始めないとたくさん飲むか飲まないかはわからない点にあることだし、何しろ安いからそう簡単に離れられないこともある。まあ困ったことなのだ。

あの日は久しぶりで日本に来ていたジョンさんと女性陣がにぎやかに話している脇で、なんだか、うだうだとさつさされつつしながら、不難い話をねちねちとしていたが、まあ、大して覚えていないのだから大した内容はなかったのだろう。それも酒が悪いせいだ。ただ困ったのは私の仕事は何かと聞かれることだ。彼とは一緒に旅をしたり飲んだりしているのだが、うちの事務所に来るたびに、やっていることが様々で、今日なんか東南アジア向けの便所の正しい使い方のイラストを派手に描いたりしていたりしている傍らで、橋や公園の図面やデザインが散らばり作りかけの本が散乱し、集まってきた仲間達に子供達の作文を押しつけてワープロをやらせ、もし、お願いしている頭上にヘルメットがぶら下がっているのだから、まあ、混乱するのは仕方ないが、それを説明する方はもっと困惑する。

私の仕事は簡単に言えば相手が私をなんだと思っているかで決まればいいし、仕事はお客さんが決めてきたし、それで良いのです。完成予想図を頼んでくる所はパース屋さんだと思っているし、公園などの計画をする所は公共デザインの会社だと思っている。編集屋さんだと思っている所もあれば、パンフレットや名刺を作る所だったり、土木構造物の現場の検査の会社だと思っている所もあるし、設計会社だと思っている所もある。まじりを合わせて社会のために突き進む会社でなくても良いではないですか。

こんな話を書いていて思い出してきたのだが、あの夜話していたのは「生きる意味」というものの多様性が中心にあったようだった。人に誇れる仕事を成し遂げて舞台から去ってゆげだけが生き方だろうか、のりくらりとみんなのほほえみの中でかっこうわるくじたばたしながら生きて、去っていくのもありだろうし、そんなに悪いことでもないし、立派なものを後世に残す必要もないし、みんなすばらしく教育的にまじめに生きてきた証をしっかりと後世に残そうなんてそらって努力する世の中なんて怖いではないか。

一人一人が持っている命がそれぞれの奔放さで燃えて去ってゆく中で、それでいて誰にも迷惑をかけることなく心地よくすごせる方向を、模索しているのだろう。この国だっていかにも発狂的で狂的でだらしないように見えるけれども、模索している方向を間違えてはいけなはずだ。人間なんてそんなに明快であるはずはないのだ。そんな話を半分も通じない言葉で安酒に頭を浸食されつつ、酒をこぼした!おどおど言葉を選んだりしながら背中をまるめて灰色の目に向かってつぶやいていた。

その帰り、思索は混乱し、みっともなぐらぐらとさまよって、門柱にぶつかってひっくり返るのも当たり前だったのだ。そう思いませんか。みんなが天才である必要なんてあるわけはないのですよ。

12月のまなざしの編集は18日におこないます。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJPN@aol.com